
御猫様！ 飼われる。

sakura-i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御猫様！ 飼われる。

【Nコード】

N8290Y

【作者名】

sakura-i

【あらすじ】

猫っぽい小説を書いてみました。あまりきたいしないでよんでください。よろ^^

（前書き）

はじめてとうこうしました。あまりたたかないでほしいです。それでわ、よろしくおねがいします。

我輩は、猫である。名前はまだない。そして、受けではない。どちらかといえばタチである。

ちなみに、前世の記憶がある。魔法もある。30までアレの魔法ではない。何もないところから、火を出したり、水を出したり、傷を癒したりも出来る。我輩は、3つくらい魔法が使える。変身と探査、肉体強化である。普通は7、8個は使える。我輩は、平均以下なのである。

今日も探査魔法を使って、ねずみを捕って食べている。たまに別なものも食べられる。案外自由気ままである。

日向で寝ていると足音が聞こえる。これは、人の足音だ。横目で見てみたら、可愛い嬢ちゃんである。我輩汚いから、近寄らないほうがいいぞ。「ニャー」

我輩の心は届かないようだ。捕まえられた。飼われるのか、食われるのか。3：7くらいか。

なんか、変な爺さんが出てきた。この格好はまさか…執事だとも言うのか！

ふむ。飼われるみたいだ。まさか3割のほうがくるとは、我輩の観察眼は、衰えたのか。おばちゃんがいっぱいくる。これは…メイドさんなのか???うん。メイドさんだな。風呂場らしきところに連れて行かれた。今は猫なので、暴れておく。

「フギャー!!!」案外おばちゃんは力があつた。面倒になったので大人しく洗われることにする。

「ニャー」あ、そこ…き、気持ちいい…ああ、お尻の穴をそんなにいじらないでえ。やめてえ、見ないでえ…ら、らめえ…

我輩は猫である。案外受けもいいかもしれない。とうとう御嬢ちゃんに引き渡された。名前をつけてくれるらしい。だが、だがしかし、我輩は眠いのである。というわけで、我輩は寝ます。オヤスミ。

我輩は猫である。名前はまだ覚えていない。べ、別にいやだから覚えるのを拒否しているわけじゃないんだからね!!

我輩もオスである。リリアー又は辞めてほしい。でも、ご飯を捕りに行かなくていいのは、楽でいい。

だから、名前に関して言えば諦めて、呼ばれたら反応するようにしている。

「リリー。どこにいるのー？」我輩を呼ぶ声が聞こえる。ここは一応居場所を知らせておこう。

「おう、どないした。」あ。

「あれ？しゃべった？」おつとまずい。ごまかさなければいけない。「ニヤー、ニヤー！ニヤー!!」

「ねえ、リリー。しゃべった？」我輩はさらにかわいく見せるために首をかしげた！これでどうだ!!「ニヤ？」

「気のせいよね。少し疲れているのかしら？」そうです。お疲れなのです。ダメ押しをしておこう。我輩はご飯を要求した。ニヤーニヤーニヤー

「まあいいわ。ハイ。ご飯ですよ。」関係ないけど、のりのCMっぽい。

「腕によりをかけて作ったから、きれいに食べてね？」御嬢ちゃんが作ったわけじゃないんだけどね。まあ、出来るだけ頑張ります。ニヤーン！

「あらあら、おいしそうに食べるわね。」ちょっと、こっちは食事中だ。頭なでてくるな。食べにくいぞ。

「じゃあまたね。お食事が終わったら一緒に遊びましょうね。」
やっとな開放された。

ただいま、家？の中を探索中。やはり非常口の場所の把握はやっておかねばいけない。うろろろしているといういろんな人を見かける。鎧を着た人や凄く着飾った人、異様に太った人、メイド仲間で噂話をしている人、若いメイドを口説いている人、若いメイドにたかられている人、若いメイドに世話をされている人、可愛いメイドとキスをしているかっこいい男…この、リア充め！夜道は、背後に気をつけるよ！というわけで、そろそろ御嬢の所に行こうと思う。

「だから私は…」うん？

「だが、このままでは…」あまり聞こえないなあ。魔法でも使って聞いてみるか。

「でも、嫌なものは嫌なのです！」いきなり怒鳴るなよ！頭に響く！

「そう我儘を言わないでくれ。そなたがこの結婚を嫌がっていても、断れないのだ。あの国に逆らって滅んだ国は数えられないくらいある。我慢してくれ。

それに、この事はすでに決定されている。いまさらどうすることも出来ない。わかったな…」あれまあ、言い争い中だねえ。

「…わかりました。でも、リリアー又は連れて行ってもいいですか？」ええー

「リリアー又とは？」

「私の拾ってきた猫です。猫くらいなら、連れて行ってもよろしいでしょう？」断れ！断れ親父！

「猫くらいならいいだろう。」了承するなよ…

「でわ、お父様は、政務に戻ってください。今日はもう顔も見たくありません！」

「ああ、そうか。」親父！帰るなよ！断ってからにしろ！お願い

だから！あー、行っちゃった…ついて行かないといけないのか。これ
れが、飼い猫の運命。

あ、御嬢に見つかった「ああ、リリー！これからもずっと一緒だ
からね！」なら、オスの名前をくれ。まあ、とりあえず膝の上で丸
くなっておくか。撫でてきたから、手を舐めた。

「リリー。慰めてくれるの？」いえ、別に。

「ふふっ、ありがとう。リリー」どういたしまして。

我輩は猫である。名前はリリアーヌだ。オスだけど。諦めて受け
入れた。まあ、それなりに恩返しをしていきたい。

（後書き）

ご拝読、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8290y/>

御猫様！ 飼われる。

2011年11月24日19時52分発行